

被災地支援に協力を

インド洋大津波で
操山高校生徒会

義援金など募る

操山高（岡山市浜）の「でも何かできないか」と生徒会は、スマトラ沖地震による津波の被災者支援のため、校内を中心に募金などを募っている。十四日までの予定で、生徒からは現金や絵本などが寄せられている。

「物資を次々と納めたり、担任を通じて手渡ししている。」

募集は、報道を通じて被災地の惨状を知った生徒会役員らが「自分たちには、役員が用意した箱

現金を寄付した二年大野敦美さん（左）は「孤児になった子が大勢いると聞いた。子どもを元気づけるのに使ってほしい」と話す。

一、二年生が集合した機会に呼び掛けた。生徒たちは、役員が用意した箱

同じ敷地にある操山中の生徒も寄付に協力しているほか、今後は通信課程でも教員が生徒に呼び掛ける。

絵本を除く物資は全校分をまとめて今月末をめどに、現地で医療活動などを展開している国際医療ボランティアAMDA（檜津）に提供する



被災地支援のため書き損じはがきを提供する生徒

予定。活動資金や医薬品の購入費などに充てられる。絵本は被災地の子どもへのケアに使われる。

「衛生状態の改善や、同じような災害が起きたときの被害低減に役立ててほしい」としている。

喜田さんは「被災地